

第 26 期

(平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月)

事 業 報 告 書

公益財団法人 双日国際交流財団

第26期（平成24年4月～平成25年3月） 事業報告書

公益法人へ移行後2期目となった第26期、平成24年度（平成24年4月1日～平成25年3月31日）は、第24期（平成23年4月～6月）及び第25期（平成23年7月～平成24年3月）に続き、基調事業としての学術研究助成、奨学金助成、国際交流助成等の助成事業を実施し、またその他事業として、機関誌「財団だより第9号」の発行と関係先への配布及び財団ホームページの管理・運営を継続、実行した。

収支面では、前年度に続いて、双日㈱から事業費及び管理費用として500万円の寄附金を受領した。また今年度の基本財産の運用収益は、依然として金利水準が低迷する中、平成24年度年間では4,030万円を確保できた。

一方、基本財産は、平成24年度第3四半期以降の急激な債券価額の高騰に伴い、基本財産の時価評価による評価益の大幅増加を主たる要因として、今期末の基本財産額は前期末比6,831万円強増加の計20億9,594万円となった。

〔I〕 今期の事業の概要

a. 助成事業

今年度の助成事業は、平成24年度事業計画に定められていた当初の43案件に加えて、9月から12月までの間に追加選考した3案件を加えた計46案件計3,566万円の助成を実施した。以下に、各助成案件の概要を報告いたします。

イ) 学術研究助成

1. ライシャワーセンター/日米関係研究活動への助成

日本理解を促進し日米関係の健全な育成のために行う同センターの下記諸活動に対して助成。

- ① 日米関係年次報告書制作プロジェクト
- ② 日本のエネルギーの将来プロジェクト
- ③ 日本人客員研究員招聘プロジェクト 他

2. ブルッキングス研究所/日本研究と政策提言への助成

米国最古・最大のシンクタンクであるこの研究所が行う日本からの研究者招聘プログラム、日本に関する研究会・セミナー等の開催、日本に関する研究及び研究書の出版に対して助成。

ロ) 奨学金助成

1. 当財団奨学金制度による外国人私費留学生への奨学金助成

今年度5月～6月の補充選考を経て、前年度に続き、合計16名の以下の奨学生に対し

奨学金を支給した。

- ①ソン エイコン (北海道大学大学院 環境科学院)
- ②ボルド ジャウフラン (一橋大学大学院 経済学研究科)
- ③ベルムバーリク モハammad (東北大学大学院 工学研究科)
- ④スーザン ページ ティラー (東京大学大学院 学際情報学府)
- ⑤ソン ミヘン (九州大学大学院 人間環境学府)
- ⑥チャン ダン フォン (大阪大学大学院 工学研究科)
- ⑦ベ ギョンジュ (横浜国立大学 経営学部)
- ⑧デュアリング パスカル ジョン (早稲田大学 文学部)
- ⑨バリカ アレクサンドラ マリア (立命館アジア太平洋大学 国際経営学部)
- ⑩チョウ ライ (名古屋大学 文学部)
- ⑪ヒョン ナミ (慶應義塾大学 文学部)
- ⑫イム ソンギュ (上智大学 理工学部)
- ⑬ユン グックジン (筑波大学大学院 生命環境学研究科)
- ⑭プリマコワ カテリーナ (神戸大学大学院 人間発達環境学研究科)
- ⑮レ ヴ フン (東京工業大学大学院 理工学研究科)
- ⑯オンケン インゲウァン ダディー (名古屋大学大学院 国際開発研究科)

2. 国際大学奨学金制度への助成

国際大学が、同大学に在籍する外国人私費留学生に支給する同大学の奨学金制度の中の Sojitz Foundation Scholarship に対して助成を行った。

ハ) 国際交流助成

(国際会議等)

1. 「第 64 回 日米学生会議」への助成

「衝突と理解から生まれる新たな意志～未来を構築する力～」をテーマにアメリカ国内 5 地域を巡りながら討論する形で開催された。

開催時期： 2012 年 7 月 28 日～8 月 20 日

開催地： アメリカ (ダラス・マディソン・バークレー・サンフランシスコ・シアトル)

参加人員： 日本側 36 名、 米国側 35 名 計 71 名

2. 「第 30 回 日中学生会議」への助成

分科会討論・文化交流・フィールドワークを中心に、中国の北京、広州、上海、南京にて開催。

開催時期： 2012 年 8 月 13 日～8 月 28 日

参加人員： 日本側 38 名、中国側 28 名 計 66 名

3. 「第 27 回 日韓学生会議」への助成

分科会討論を中心に、文化交流企画、フィールドトリップ、ホームステイ等を通じて交

流し、相互理解を図った。

開催時期： 2012年8月5日～8月18日

開催地： 日本（東京）

参加人員： 日本側9名、韓国側14名、通訳4名 計27名

4. 「第28回 日韓学生フォーラム」への助成

「the better we understand, the closer we become」をテーマに、韓国で開催。北朝鮮、日韓の公教育と私教育、日中韓 FTA をテーマにしたシンポジウムや、ディスカッションを行った。

開催時期： 2012年8月10日～8月22日

開催地： 韓国（ソウル・釜山）

参加人員： 日本側13名、韓国側12名 計25名

5. 「第24回 日本ロシア学生会議」への助成

政治、経済、文化、環境の4つのテーマで、分科会での討議を中心に、社会見学、文化紹介、ホームステイなどを通して交流した。

開催時期： 2012年8月13日～8月27日

開催地： 日本（東京・横浜・鎌倉 他）

参加人員： 日本側14名、ロシア側20名 計34名

6. 「第25期 日本ロシア学生交流企画」への助成

第25期日本ロシア学生交流会は、関東及び関西の2本部が、それぞれ訪日企画、訪日企画の計4つの企画を行い、ロシア側と交流した。

開催時期： (1)訪日企画 2012年8月12日～8月25日

(2)訪日企画 2012年8月4日～8月13日

開催地： ロシア（リャザン・ノヴォシビルスク）

日本（東京・大阪・京都）

参加人員： (1)関東本部 日本側37名、ロシア側14名 計51名

(2)関西本部 日本側16名、ロシア側11名 計27名

7. 「第16回 日本インド学生会議」への助成

文化、社会、経済、教育の諸問題についての分科会討論や企業・施設訪問を通じて交流。

開催時期： 2012年8月8日～9月4日

開催地： インド（コルカタ・チェンナイ・バンガロール・デリー）

参加人員： 日本側8名、インド側延べ70名 計78名

8. 「第13期 日本ケニア学生会議」への助成

「開発」「ビジネス」「環境」「文化」についての分科会討論、施設訪問、ホームステイなどを通して、両国の学生が相互理解を深めた。

開催時期： 2012年8月9日～9月2日
開催地： ケニア（ナイロビ・モンバサ・ナクル）
参加人員： 日本側10名、ケニア側12名 計22名

9. 「第58回国際学生会議」への助成

「未来を据えて、この世界・この社会で今考えること」をテーマに、分科会でのディスカッション、研修旅行、日本文化体験などを通して交流した。

開催時期： 2012年8月22日～8月25日
開催地： 日本（京都・大阪・神戸・岡山・九州）
参加人員： 7カ国から52名が参加（日本38名）

10. 「第8回 日本ルワンダ学生会議」への助成

両国の学生が東日本大震災の被災地を訪問し、また栃木県では農業体験をして、「国の復興」と「経済発展」について討論・意見交換を行った。

開催時期： 2012年8月17日～8月31日
開催地： 日本（東京・横浜・栃木県・岩手県）
参加人員： 日本側27名、ルワンダ側4名 計31名

11. 「LEAF Forum 2012 中国セッション」への助成

日中韓の学生が組織する東アジア学生フォーラム。日中韓の歴史・文化についてディスカッション・フィールドワーク・プレゼンテーションを行い、交流。

開催時期：2012年8月19日～8月25日
開催地： 中国（北京）
参加人員：日本側12名、中国側12名、韓国側12名 計36名

12. 「第10回 日本・イスラエル・パレスチナ学生会議」への助成

アイデンティティ、移民、差別、メディア、教育等をテーマに、3地域の学生が討論し、紛争解決の糸口を探りながら、互いの共通点、差異について共通認識を持った。

開催時期： 2012年8月10日～8月26日
開催地： 日本（広島県・東京）
参加人員： 日本人20名、イスラエル人3名、パレスチナ人5名 計28名

13. 「第6回 日本ベトナム学生会議」への助成

IT、学生生活、ごみ問題、外国文化・国際結婚の4テーマについて分科会討論を行い、ホーチミン、ハノイ、フエでの文化交流会、企業訪問、ホームステイなどを通じて交流した。

開催時期： 2012年8月15日～8月29日
開催地： ベトナム（ホーチミン・ハノイ・フエ）
参加人員： 日本側21名、ベトナム側24名 計45名

14. 「日中学生交流団体 free-bird CHINA TRIP 2012」への助成
「私たちの絆＝日中友好の証」のスローガンの下、分科会討論、フィールドワーク、南京への小旅行、家庭訪問を通じ相互理解を図った。
開催時期： 2012年8月9日～8月16日
開催地： 中国（上海、南京）
参加人員： 日本側10名、中国側10名 計20名
15. 「2012 模擬国連会議全米大会第29代日本代表団派遣事業」への助成
今年度の提携校カリフォルニア大学バークレー校の学生とチームを組んで、外交戦略立案、他国の大使役との交渉などの模擬国連活動を行い、参加他大学の学生との交流を行った。
開催時期： 2012年3月18日～4月6日
開催地： アメリカ（サンフランシスコ、ニューヨーク）
参加人員： 日本側10名、アメリカ・カナダ・ドイツ・フランス・イタリア・中国など300以上の大学から約5,000名
16. 「グローバル・ネクストリーダーズフォーラム2012 国際本会議」への助成
日本、アフリカ、中近東、東欧など8ヶ国からの学生・教授、准教授44名がチュニジア・チュニスに集り、「危機の時代に求められる“Good Governance”とは何か」をテーマに、国際的な関心事について学び、対話し、議論を行った。
開催時期： 2012年10月2日～10月8日
開催地： チュニジア（チュニス）
参加人員： 日本18名、チュニジア、インド、エジプト、キルギス、ブルガリア、南アフリカより26名 計44名
17. 「STeLA Leadership Forum 2012 in Tokyo」への助成
次世代の国際的理工系リーダーを目指す日本・アメリカ・ヨーロッパ・中国の理工系学生が一堂に会し、「自然災害」をテーマに、リーダーシップの学習、分科会、グループプロジェクト等の合宿型フォーラムを行った。
開催時期： 2012年8月11日～8月19日
開催地： 日本（東京）
参加人員： 日本13名、アメリカ8名、ヨーロッパ13名、中国13名 計47名

(国際交流)

18. 「第25回ジャパンテントー世界留学生交流いしかわ2012ー」への助成
日本で学ぶ世界からの留学生300人が石川県に集い、「ふるさと愛」をテーマに、若者達の夢と希望・日本の社会・文化・生活について意見を交換し合い、シンポジウム、ホームステイ等を通じた国際交流が行われた。
開催時期： 2012年8月23日～8月28日

開催地：日本（石川県金沢市・小松市・輪島市、七尾市、能登町、加賀市 他 19 市町）
参加者：留学生（70 カ国・地域から）300 名、地元の人々

19. 「2012 年"平和一絆でつなぐ地球-日本語サミット」への助成

世界 61 カ国 130 名の応募者の中から 12 カ国 12 名の日本語を学ぶ若者達を選ばれ、日本で、同世代の日本人青少年を交え、ディスカッション、ホームステイ、伝統文化体験等を通じて、世界平和への思いを共有し、相互理解を深めた。

開催時期：2012 年 7 月 3 日～8 月 7 日

開催地：日本（東京・長崎・大分・宮崎）

20. 「共生学習サマースクール（SS-12）」への助成

ウランバートルにある「新モンゴル高校」を舞台にして、日本の大学生が教師役となり、モンゴル高校卒業予定者を対象に、日本の詩や歌を含む日本語の授業、日本の社会生活の学習、日本語を使つてのモンゴル内の社会問題のリサーチ及び解決策の検討を行うサマースクールが開催された。

開催時期：2012 年 7 月 23 日～8 月 27 日

開催地：モンゴル（ウランバートル）

参加人員：日本からの派遣人員 5 名、現地運営メンバー 5 名、後方支援メンバー 10 名、新モンゴル高校生 50 名

21. 「Sister City 日米高校交流事業」への助成

愛媛県松山市の松山聖陵高校の生徒 9 名が、同市と姉妹都市である米国サクラメント市を訪れ、同市のハイランド高校、同市役所及びカリフォルニア州議事堂他で、現地の高校生や一般市民に対し、日本の三味線、日本舞踊を披露し、日本文化紹介と交流を行った。

開催時期：2012 年 9 月 20 日～9 月 24 日

参加人員：ハイランド高校生徒及び一般市民 約 500 名

22. 「互いのことばを学ぶ日中の高校生サマーキャンプ 2012」への助成

中国語を学んでいる日本の高校生 86 名と日本語を学んでいる中国の高校生 52 名が中国吉林省長春市に集い、共同生活をしながら互いの言語を学ぶと共に協同活動を通じて交流した。

開催時期：2012 年 7 月 23 日～8 月 2 日

開催地：中国（吉林省長春市）

23. 「CEPEX Japan Studies Award」への助成

米国の NPO 法人 CEPEX が、ジョージメイソン大学と共同で行うアメリカ人日本専門家育成プログラム「Japan Studies Award」。このコンテストの優勝者には、ワシントン DC の日本企業での 2 週間のインターンシップの経験及び 10 日間の日本訪問の機会が

与えられた。

開催時期： 2012年4月～6月

開催地： 米国（ワシントン）

24. 奨学生交流会

当財団の奨学生に日本の文化、社会の良き理解者になってもらうべく、初日は、奨学生、財団役職員及び双日㈱の関係者も加わっての東京のホテルでの懇親会、2～3日目は日光方面への研修旅行という財団奨学生の交流会が開催された。この交流会を通じ、奨学生同士の親睦が一層深まった。

開催時期： 2012年9月20日～22日

参加者： 奨学生・奨学生OB 21名、 役員他関係者 37名 計 58名

25. 「第10回学生のための国際ビジネスコンテスト OVAL」への助成

日中韓3ヶ国の学生が30人ずつ計90人が東京に集り、日中韓の3人が1チームとなり、「東アジアからのグローバルリーダーの輩出」を目指し、合宿形式でのビジネスコンテストを行った。このコンテストを通じ、相互理解、国際交流が図られた。

開催時期： 2012年8月12日～21日

開催地： 日本（東京）

参加人員： 日中韓各国30人、計90人

26. 「地球で輝く高校生育成プログラム」への助成

スリランカから高校生5名、引率の先生1名を日本に招聘し、佐賀市及び近郊の施設、高校、観光地を訪問、農家民泊、ホームステイ、日本文化体験を通して交流が行われた。

開催時期： 2012年8月2日～8月10日

開催地： 日本（佐賀県佐賀市）

参加者： スリランカ側6名、日本側高校生・大学生・一般市民 延べ300名

27. 「ウォールアートフェスティバル2013」への助成

学校の校舎の壁をキャンバスにして、日本とインドのアーティストが10～20日間の滞在制作を行い、地元の子どもたちにアートの力を伝え、学校の楽しさを伝えて交流し、その模様をメディアを通じて内外に伝え、地域の活性化を目指すプロジェクト。今年度は、インド・マハラート州ターナー地区で開催された。

実施時期： 2013年2月16日～2月18日

開催地： インド（マハラート州）

参加人員： 日本側47名、インド側33名、来場者約5,000人

28. 「仙北市・台湾友好記念文化交流訪台事業＝高校生派遣事業＝」

秋田県田沢湖と台湾澄清湖の姉妹湖提携25周年を記念し、仙北市が高校生16名を含

む 100 余名の訪台団を台湾（台北市、台中市、高雄市 他）に派遣、高校生は現地高校数校を訪問し、飾山囃子などの伝統芸能を披露し、文化交流を行った。

開催時期： 2012 年 11 月 11 日～11 月 15 日

開催地： 台湾（台北市、台中市、埔里鎮、高雄市 他）

参加者： 日本側 106 名、台湾側 延べ 1200 人

29. 「Bizjapan Summit 2012」への助成

シンガポール、中国、アメリカ、フィリピン、韓国、ベトナムから 32 名の学生を日本に招聘し、日本側学生とミックスチームを作り、起業を念頭にしたビジネスプランコンテストを行うことで、日本社会についての理解促進と国際交流が行われた。

開催時期： 2012 年 12 月 16 日～12 月 23 日

開催地： 日本（東京）

参加者： 日本側 15 大学から 89 名、海外側 6 ヶ国(9 大学)から 32 名 計 121 名

(日本文化紹介等)

30. 「第 37 回 ジャパンウィーク 2012 年 スペイン・バレンシア」への助成

日本から参加する多くの団体による、日本の伝統芸能、伝統工芸、美術、音楽、スポーツ等幅広いジャンルの日本文化紹介を通じて、日本に対する理解を深めると同時に、地元市民との交流を図る企画。今年度はスペイン・バレンシアで開催された。

開催時期： 2012 年 11 月 24 日～11 月 29 日

開催地： スペイン（バレンシア）

参加者： 日本側 45 団体 941 名、スペイン側 12 団体 67 名、見学者 23,250 人

31. 「バリ舞踊と能の融合「バスール物語」バリ・スラカルタ公演」への助成

観世流「能」緑泉会が、バリ島芸能フェスティバルに参加し、日本文化紹介に留まらず、能とバリ舞踊を融合させた作品の創作、公演、ワークショップを行った。

開催時期： 2012 年 6 月 20 日～7 月 6 日

開催地： インドネシア（バリ島）

参加人員： 日本側 5 名、バリ側 12 名

32. 「マジック公演と折り紙講習会（フィリピン）」への助成

NPO 法人オアシスが、今年度は在フィリピンの SOS 子供村を訪れ、マジックと折り紙の公演を通じて、子供達を中心とした地元の人々と交流した。

開催時期： 2012 年 5 月 14 日～5 月 24 日

開催地： フィリピン（マニラ、リパ、カリバヨグ、イロイロ）

参加人員： （公演 9 回）延べ観客数 計 1,060 人強

33. 「プラハ尺八フェスティバル 2012」への助成

ヨーロッパの尺八学習者を対象に、チェコのプラハで 4 日間の合宿型教育・芸術プログ

ラム「プラハ尺八フェスティバル」が今年も開かれ、日本及び地元の尺八指導者、三味線、箏の指導者により、講義・公開レッスン、演奏会、ワークショップ等が行われた。

開催時期： 2012年8月24日～8月28日

開催地： チェコ（プラハ）

参加人員： 講師陣（日本・ヨーロッパ）9名、参加者（8ヶ国）20名

34. 「日本→ブラジルお芝居出前プロジェクト」への助成

日本文化と日本人をより深く理解したいというブラジル国内のニーズに応えるべく、日本昔話を芝居で表現する出前プロジェクトが行われ、サンパウロ市他各地で芝居が上演され、日本語教育に役立てる為、現地日本語教師向けワークショップなども行われた。

開催時期： 2012年8月7日～9月4日

開催地： ブラジル（サンパウロ、グアルーリョス、ピラール・ド・スール 他）

参加人員： 日本からの出演者・スタッフ4名、総観客数約2,650人（公演29回）

（日本語普及事業等）

35. 中国・對外経済貿易大学に対する日本語教材（辞書）の寄贈

日本語普及事業として、北京の對外経済貿易大学の日本語学科の学生38名に対し、日本語の辞書を中心とした日本語学習用図書を寄贈した。

実施時期： 2012年12月3日

36. 中国・華東師範大学日本語学科への日本語辞典の寄贈

日本語普及事業として、上海の華東師範大学の日本語学科への新入学生45名に対し、日本語の辞書を中心とした図書を寄贈した。

実施時期： 2012年12月14日

37. ベトナム・ダナン外国語大学向け日本語授業用視聴覚教材の寄贈

ベトナム・ダナン外国語大学に対し、日本語授業用に、DVDデッキ、ビデオカメラ、マイク等の視聴覚用機材を寄贈した。

実施時期： 2012年7月

38. 「ベトナム・ドンズー日本語学校による日本語教材制作・配布事業」への助成

ベトナム・ホーチミン市の日本語学習者の為に、ドンズー日本語学校教師陣が、日本語の物語の翻訳書並びに文法解説書10,000冊強を制作し、自校及び市内の大学並びに日本語学校に無償配布の事業を行った。

実施時期： 2012年4月～2013年1月

配布数： 8校、3,550冊

39. ベトナム・フエ大学への日本語機材寄贈

ベトナム中部のフエ大学日本語文化学科に対し、その日本語教育授業で使用するプロ

ジェクター、IC レコーダー、CD プレイヤー等の機材を寄贈した。対象学生 500 名。
実施時期： 2012 年 12 月

40. 「オーストラリア・スカイ小学校日本語授業応援プロジェクト」への助成

和歌山大学附属小学校は、オーストラリア・ビクトリア州のスカイ小学校とインターネット・スカイプを使っての児童による絵本の読み聞かせなど日本語授業の応援プロジェクトを行っており、2012 年度はこれに加え、附属小教諭が現地を訪れ、読み聞かせ等の特設授業を行った。

実施時期： 2012 年 8 月 10 日～8 月 17 日

参加人員： 日本側 小学校児童 29 名、教員 1 名

オーストラリア側 小学校児童 485 名、教員 2 名

41. 「国際交流でアジアを豊かに・第一回フィリピン・日本、シンポジウム」への助成

アジアの若者が日本語を学べる環境を整えるべく現地に日本語教室を開設する等の活動をしている日本の NPO 法人 HPA が、フィリピン・マニラ近郊 APU 大学とバレンシア市 MVC 大学に於いて、日本文化・日本語についてのシンポジウムを開催し、日比の国際交流の促進を図った。

実施時期： 2012 年 10 月 1 日～10 月 8 日

開催地： フィリピン（マニラ近郊カビテ州、ミンダオ島バレンシア市）

参加人員： 日本側 4 名、フィリピン側 学生・教授 約 400 名

42. 「スロヴァキアと日本の民話・伝説の朗読会」への助成

東京の「日本語サロン」がスロヴァキアのプレシヨフ大学でスロヴァキアの大学生・高校生・社会人が、スロヴァキアと日本の民話や伝説を日本語で朗読する朗読会を開き、日本語普及と日本理解促進については両国の相互理解となる交流会を行った。

実施時期： 2012 年 11 月 17 日～25 日

開催地： スロヴァキア・プレシヨフ市

参加人数： スロヴァキア側 24 名、日本側 7 名、観客数 約 70 名

b. その他の事業

「その他の事業」として、次の 2 事業を行った。

1. 財団ホームページの更新・運営

前年度に引き続き、外部に対する情報発信ツールとしての財団ホームページの更新・維持・運営を行った。

2. 「財団だより - 第 9 号」の発行

平成 24 年 9 月「財団だより - 第 9 号」を発行し、関係省庁、他財団ほか助成先、財団関係者、母体会社の双日株式会社の本社・支社・海外店及び関係会社に配付し、事業報告及び財団の活動の PR を行った。

[II] 管理・庶務事項

平成 24 年 4 月 1 日 平成 24 年度奨学生募集を開始

5 月 9 日～10 日 会計監査人による決算監査

6 月 11 日 第 75 回選考委員会を紙上開催

- ・平成 24 年度奨学生 10 名を補充選考

6 月 14 日 第 71 回理事会を開催

- ・平成 23 年度事業報告書及び決算報告書を承認
- ・「運営管理基金規程」の一部を変更
- ・理事長・専務理事の職務執行状況報告

6 月 25 日 第 59 回評議員会を「報告の省略」の方法で開催

- ・平成 23 年度事業報告及び平成 23 年度決算報告

7 月 5 日 第 72 回理事会を「決議の省略」の方法で開催

- ・財団の主たる事務所を港区赤坂から千代田区内幸町に移転することを決議

7 月 13 日 第 60 回評議員会を「決議の省略」の方法で開催

- ・定款の一部、主たる事務所の所在地の表記を変更

7 月 17 日 財団の事務所を港区赤坂から千代田区内幸町に移転

7 月 25 日 財団の事務所の移転を登記

7 月 31 日 大橋洋治理事が辞任

9 月 12 日 第 73 回理事会を「決議の省略」の方法により開催

- ・公益事業実施準備基金 2000 万円中 500 万円を取崩しすることを決議

9 月 18 日 機関誌「財団だより 第 9 号」を発行

9 月 20 日～22 日 「財団奨学生交流会」を開催

10 月 12 日 第 76 回選考委員会を(紙上)開催

- ・追加助成案件 1 件を選考

11 月 1 日 平成 25 年度国際交流助成募集開始

11 月 16 日 第 77 回選考委員会を(紙上)開催

- ・追加助成案件 1 件を選考

11 月 30 日 第 78 回選考委員会を(紙上)開催

- ・追加助成案件 1 件を選考

12 月 31 日 平成 25 年度国際交流助成募集〆切

平成 25 年 2 月 12 日 第 79 回選考委員会を開催

- ・平成 25 年度助成案件を選考

3 月 12 日 第 74 回理事会を開催

- ・平成 25 年度助成案件(案)及び平成 25 年度事業計画(案)を承認
- ・平成 25 年度収支予算(案)を承認
- ・会計処理規則を変更
- ・理事長・専務理事の職務執行状況の報告

以 上